

バイオミミクリ（生物模倣）は、自然界や生物の仕組みに学び、そのデザインやプロセスを真似る（あるいはインスピレーションを得る）という視点で技術開発を行い、社会の問題解決と環境負担低減を実現しようとするコンセプトから成り立っています。

最近、経験した中でバイオミミクリから得たインスピレーションを述べさせていただきます。

アフリカのサバンナには雨季と乾季があり、乾季は草が全く枯れていますが、一度雨が降るとわずか2～3日で青々とした草原に変貌します。

私は、サンフランシスコ（2010年11月）で、本来ならば砂漠気候で春にならないと草は青々とならないのですが、季節外れの雨が降ると2～3日で山の色が茶（枯れ草）から緑（青々とした若草）に変わっていました。私の疑問は、何故、雨が降るだけで草は一挙（2～3日）に種から草に変わるのか？でした。実は、私は自宅の近くで24坪の「マイ農園」（別名：六車農園）を持っています。今年の夏は暑くて雨が降らず、野菜の育ち方が悪く、今年はまだダメだなあと感じていました。ところが、雨が3日間降ると、見る見るうちに野菜は元気になり、結果的には大豊作でした。

この「わずかな雨が降るだけで、こんなに植物は変貌する」ということの不思議さの中で、たまたまワインの作り方の概念的考え方をソムリエから教わる時に、雨と植物の関係を知りました。つまり、ワインはブドウを熟成させて作る訳ですが、熟成するうちに、最初は果物としてのワインの味覚・風味から、さらに熟成が進むと最後はワインを形成するブドウの木を育てる土壌まで行き着き、その結果熟成度の低いワインはフルーティな味覚・風味、熟成度の高いワインは土壌の土臭い味覚・風味となり、これを土臭いと感じるか、深みのある味になると感じるかは、味の分かる感性のある人（結果は飲む人）か否かです。

この時に、植物が育つには「土の中の無機物」と「大気中の二酸化炭素」と「太陽からの光エネルギー」と「河川の水」の4つの要素が必要であることを改めて知りました（昔、小学校で学びました）。

サバンナやサンフランシスコやマイ農園での雨による急速なる植物の発育は、実は、既に土壌ができており、空気中には二酸化炭素が存在し、太陽からの光エネルギーを大量に受け（特に、サバンナやサンフランシスコは日差しが強い。マイ農園も真夏）、植物が発育する4要素のうち3要素は十分の量（形）で準備万端であり、足りなかったのは「雨」（水）だけの状態であった訳です。植物が光合成する時に必要な「水」の不足が植物の育成を止め、あるいは遅らせていました。つまり、水は火の「発火点」の存在でした。

流通業界においても、成果を出すための要素はいくつかありますが、なかなか勢力の割に成果が出ないことが多いのが現状です。成果を出すために色々なノウハウを駆使していますが、「何か1つ足りないために成果が出ない」ことがあります。これを「隠し味ノウハウ」と言いますが、この隠し味ノウハウを探索して発見することを「見抜く」（他の人が知らないことを自分だけが分かること）と言います。

この見抜くことは流通では、マーケットのエアポケットを見抜くという言葉に置き換えることができます。マーケットはセグメントすると、多種・多様なマーケットになります。その中で、誰もが見抜いていないものをビジネスとして具体化すると「プラス25本安打の理論」（紙一重の理論）に基づく5倍の成果が出ます。

成果を形成する要素が全て揃っていると思っていても、成果が出ない時は「何かのノウハウ」（植物で言えば“水”）が足りない訳です。この“何か”を発見することと、他の要素を整えることが成果を飛躍的に高めます。植物のように、光と土壌と二酸化炭素があっても“水”がなければ成果は出ません。しかし、光と土壌と二酸化炭素がないと水がいくらあっても成果は出ません。水のことを「見抜く」と言い、光と土壌と二酸化炭素のことを「整える」あるいは「準備」「前提」と言います。

(株)ダイナミックマーケティング社⁺
代 表 六 車 秀 之